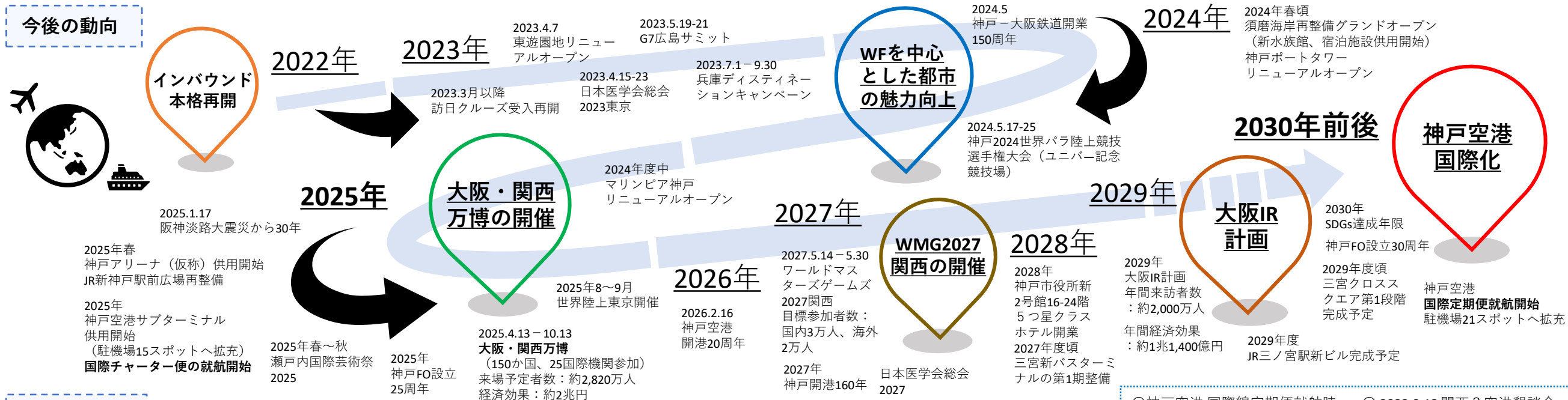


趣旨

「神戸観光局 中期ロードマップ for 2025」(2022年3月)策定以後、2022年10月よりインバウンドが本格再開し、大阪・関西万博が開催される2025年には神戸空港に国際チャーター便、2030年前後に国際定期便の就航が予定されていることを踏まえ、2030年を見据えたロードマップとして再構築する。

今後の動向



重要な視点

顧客起点・SDGs・持続可能性・高付加価値化・DX

神戸観光局の目指すべき姿・方針

① 観光需要を拡大させる“神戸観光の中核的存在”に

- ・2025年の大阪・関西万博、2030年前後の神戸空港の国際化に向けたインバウンドの誘客促進〔神戸インバウンド戦略2.0〕
- ・神戸空港の国際線就航・発着拡大と関西・瀬戸内周遊の拠点化を見据えたプロモーションの強化
- ・神戸ならではのライフスタイル・食・文化・自然を楽しむコンテンツの充実
- ・神戸を代表するイベントの継続開催による集客力の向上・消費額の拡大

② 「観光」「FO」「MICE」「港湾振興」が連携し、総合力を発揮する“国内唯一のDMO”に

- ・神戸を舞台とした映像作品制作の支援強化、ロケ地巡りによる誘客促進
- ・MICE誘致による経済波及効果・シビックプライド向上への貢献
- ・満足度の高いMICE施設運営、事務局を担う国際コンベンションの開催・ノウハウの活用
- ・親しみやすい港づくり事業の展開による神戸港の活性化、「港町神戸」としての魅力向上

③ 市民・事業者に寄り添い、期待に応えられる“専門集団”に

- ・観光マーケティング力を磨き、関係者とともに戦略を練り、事業を実施
- ・市民・事業者と対話を行い、ニーズを把握し、方向性を確認
- ・会員事業者のサポートや交流機会を創出し、部間横断・官民連携によりDMOとして組織力を高める

○神戸空港 国際線定期便就航時の旅客数見込み(2022.10市試算)
旅客者数:年間約700万人
内、国際線は約190万人(東アジア方面は約150万人、東南アジア方面は約40万人)
国内線は約510万人

○2022.9.18 関西3空港懇談会での合意内容
国際線定期便発着回数
上限 1日40回
国内線 “
上限 1日80回→120回に
(国内線は2025年新ターミナル完成後)

〔2025年に向けた主な取組み〕

- ・国際チャーター便の就航、大阪・関西万博の開催を見据え、外国人延べ宿泊者数100万人(2019年74万人)の目標設定
- ・神戸を彩る特選プログラム「神戸のとびら」の国内外向けコンテンツ、ラグジュアリー向けコンテンツの充実化
- ・データに基づいたエリア・ターゲット別の効果的なプロモーションの実施、WEBメディア・SNSでの情報発信の強化
- ・神戸のロケーションを活かした作品のロケ誘致の強化、インバウンド誘客を視野に入れた海外作品のロケ誘致の開拓
- ・2019年国内2位の国際会議開催件数への早期回復、大阪・関西万博に向けたソフト施策の充実化
- ・MICEの顧客目線に立ったサービスの充実化、高い利用者満足度の確保、国際コンベンション「Techno-Ocean」の持続開催・運営ノウハウの活用
- ・クルーズ客船の受入強化、神戸港振興倶楽部等の港湾事業者との連携強化、海事専門集団としてのスキルアップ
- ・神戸観光局会員からの高い満足度の獲得、事業者・地域住民のニーズ把握と関係性の構築
- ・神戸観光局職員のスキルアップ・人材育成の強化、組織全体でのパフォーマンスの向上、安定的な法人運営の実現